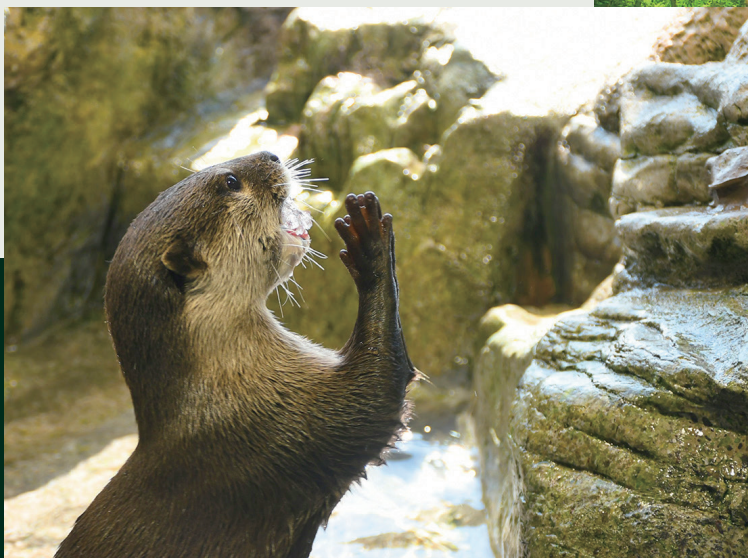


あかりの森プロジェクト 活動報告書

2025 annual
activity report



20
25



CONTENTS

- 01 ご挨拶
- 02 一般財団法人C.Wニコル・アフアの森財団
～Afan シナネンあかりの森での里山を目指した森林再生～
- 03 青葉組株式会社
～シナネンあかりの森の土地を生かした森づくり～
- 04 株式会社フェイガー
～カーボンクレジットの仕組みを活用し日本の農家を支える～
- 05 株式会社新江ノ島水族館
～コツメカワウソを守るために/ビーチクリーン活動～
- 06 瀬良垣ホテルマネジメント株式会社
～ハタゴイソギンチャク其自然復帰における研究～



あかりの森の応援隊長
シナモロール

あかりの森の番人
ポポネン

POPONEN * CINNAMOROLL

©2026 SANRIO CO., LTD. APPROVAL NO. L670069

01. ご挨拶

未来の世代へ豊かな自然と生活を残すために

いつもシナネンあかりの森プロジェクトへの温かいご支援をありがとうございます。

私たちにとって節目となる5年目は、夏の異常気象が非常に印象的な一年でした。

気象庁によると、2025年の夏(6~8月)の日本の平均気温偏差は+2.36℃と過去最高を記録し、猛暑日や40℃以上を観測した地点数も過去最多となりました。梅雨入り・梅雨明けも過去最も早く、地球温暖化による日本の「二季化」が現実味を帯びてきたように感じます。

さらに、「文部科学省気候変動予測先端研究プログラムと気象庁気象研究所の合同研究チームによる速報的な評価」によると、「地球温暖化が無いと仮定した場合、今夏(2025年)の高温はほぼ発生し得ない」との見解が示されています。*1

「シナネンあかりの森プロジェクト」は、環境に優しいエネルギーの普及と生態系保護を通じて豊かな自然環境を残すとともに脱炭素社会の実現に貢献するための活動を行っています。

この度、2025年度活動報告書を作成いたしました。本報告書をもって、私たちの取り組み紹介に代えさせていただきます。引き続きシナネンあかりの森プロジェクトへのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

*1参考:気象庁「令和7年夏の記録的な高温と7月の少雨の特徴およびその要因等について」

2026年3月吉日

シナネンあかりの森プロジェクト事務局



あかりの森プロジェクト活動指針

1. 自然エネルギーの普及による二酸化炭素排出量の削減に努め、地球温暖化防止に取り組む
2. 海や陸の自然保護、生態系の保護に関する活動に積極的に取り組む
3. 様々な団体と連携し、豊かな自然を守り残していくことの大切さを伝え、気候変動の緩和や影響軽減に関する啓発に取り組む

学生向け授業

未来の世代へシナネンあかりの森プロジェクトの活動紹介を通じて脱炭素、環境保護の重要性を伝える取り組みを開始しました。

2025年度は全部で3回、対象年齢に合わせたクイズを交えながら授業を実施しました。



あかりの森トピックス

コーポレートサイト内のトピックスにて森林整備の様子やあかりの森の様子、勉強会などシナネンあかりの森プロジェクトの活動について更新しています。ぜひご覧ください。

あかりの森
トピックスは ▶
コチラ



ポポネン公式X

ポポネンとシナモロールがエコの豆知識やクイズを教えてくれるアカウントです。子どもから大人まで楽しめるコンテンツを更新しています。ぜひフォローください。

ポポネン公式
X(Twitter)



@poponen2020



02. 一般財団法人 C.W.ニコル・アフアの森財団

～日本本来の自然を取り戻し、子どもたちの笑顔あふれる豊かな社会を目指す～

アフアの森財団は、英国ウェールズ生まれの作家で環境保護活動家でもあった創設者のC. W. ニコル氏が、荒廃した日本の森を再生したいとの思いから、1986年より長野県信濃町・飯綱山麓に位置する放置された里山で森の再生活動を始めたことをきっかけに設立されました。現在では「日本本来の自然を取り戻し、子どもたちの笑顔あふれる豊かな社会を目指すこと」、「100年先の未来のために生物多様性豊かな森を広げること」を目標に、企業・団体・個人の支援のもとで活動を展開しています。

当社はシナネンあかりの森プロジェクトの一環として、2023年10月よりアフアの森財団のオフィシャルスポンサーとなり、森林生態系の回復、生物多様性の保全活動を支援しています。現在支援しているアフアの森 北エリアは環境省の自然共生サイト(OECMとして国際データベースにも登録)に認定されており、里山のモデルとなっています。さらに、2025年8月1日よりアフアの森が展開する森林生態系の回復、生物多様性の保全活動を一層支援するため、アフアの森南エリアの一部(約2.2ha)を「Afan シナネンあかりの森」と命名し、森づくりを本格的に開始しました。

2025年10月には、「Afan シナネンあかりの森」において下草刈りを実施しました。枝や草が地面に積もると、太陽光が地面に届きにくくなり、樹木の生育を妨げる要因となります。そこで、樹木が健全に育ちやすく、光が十分に行き渡る森を目指し、環境整備の一環として下草刈りを行いました。その後、ヤマドリやカモシカなどが姿を見えるようになり、生き物にとっても良好な環境へと変化しつつある様子が見られます。

今後もこのような取り組みを継続し、現存するコナラやミズナラが健全な大径木へと成長するよう見守りながら活動を進めてまいります。

また、本取り組みを通じて、環境省が推進する「生物多様性のための30by30アライアンス」*1へ参加しました。「Afan シナネンあかりの森」での活動を通じて、生物多様性の回復(ネイチャーポジティブ)の実現に取り組みます。



*1: 環境省 30by30 WEBサイト: <https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/30-by30alliance/>



03. 青葉組株式会社

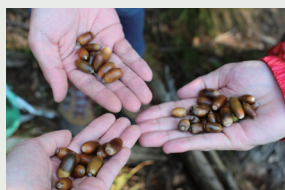
～自然資本を成長させる森づくり～

青葉組は「自然資本の再生」に特化した専門企業として、森林の健全な循環を取り戻すことを目指し、「植林・育林」に重点を置いた取り組みを推進しています。現在、栃木・新潟・茨城・岩手にて森づくりを展開しており、地域社会と連携しながら、持続可能な森林環境の構築に向けて活動しています。

本取り組みの背景には、林業が抱える課題があります。かつては「植林・育林・伐採・製品化」という林業の持続可能なサイクルが確立されており、健全な森林管理が行われていました。

しかし、戦後の木材不足に対応する拡大造林政策によって人工林は国土の約4割(約1,000万ha)まで拡大する一方、近年は林業従事者、とりわけ植林・育林を担う人材が大幅に減少しています。1980年には約75,000人いた植林・育林従事者は、2020年には約17,000人にまで減少し、伐採の進行に植林が追いつかず、森林再生の遅れという課題が生じています。こうした状況を受け、シナネンあかりの森プロジェクトでは青葉組と連携し、栃木県足利市の「シナネンあかりの森」(約1ha)において森づくりを実施しています。

スギの木伐採後のはげ山を再生し、森林本来の循環を回復させることを目的に、現地調査や森林設計を行い、2025年度にはどんぐりの採取・育成から植林までを実施しました。



採取・育成から植林までを実施しました。

「シナネンあかりの森」が目指すのは、単なる植林活動ではなく、生物多様性に配慮した森づくり。地元で採取した種子を育てた苗木を植え、在来植生を生かしながら、2055年の完成を目標に取り組んでいます。

今後は、青葉組が培ってきた森づくりの知見を活かし、「シナネンあかりの森」の成長過程を継続的に見守りながら、同様の取り組みを他地域にも展開し、自然資本の再生と地域社会への貢献を一層強化していきます。

04. 株式会社フェイガー

～カーボンクレジットの仕組みを活用し日本の米作りを支える～

フェイガーは、気候変動の影響により安定した農業経営が難しくなっている現状に対し、カーボンクレジットの仕組みを活用し、「生産性・収益性を高め、持続可能な農業を支えていく」ことを目指した取り組みを行っています。本取り組みでは、農業の現場に収益を分配することで、生産者の方々の持続可能な農業を支援しています。

国内全分野の炭素排出量の約4.8%を占める農業分野において、フェイガーの支援を通じて「中干し延長」という栽培方法を導入し、炭素排出量の削減に貢献することが可能となります。

シナネンは、それらの取り組みに共感し、フェイガーを通じて脱炭素農業の推進を支援しています。

動画: Listen to each voice ～カーボンクレジットを生成された生産者の声～
(参照): 株式会社フェイガー公式YouTube



05. 株式会社新江ノ島水族館

～コツメカワウソたちの健康管理のためのトレーニングと、生態系保護のためのビーチクリーン活動～

シナネンでは、あかりの森の番人として活動しているカワウソのポポネンとともに環境にやさしい取り組みを推進しています。

神奈川県藤沢市にある新江ノ島水族館には、遊び好きでとても活発な動きが人気のコツメカワウソを展示する「カワウソ～木漏れ日のオアシス～」という展示コーナーがあり、こちらでは現在「ヨモギ」「オモチ」「カシワ」の3頭のコツメカワウソが飼育されています。飼育スタッフは日々健康管理のために動物たちに協力してもらいながら、必要な検査をストレスなくスムーズに行うための“ハズバンドリートレーニング”に取り組んでいます。野生のコツメカワウソは、開発による生育域の減少と、毛皮やペット目的の密漁で生育数が減っていますが、新江ノ島水族館では全国の水族館・動物園と連携して繁殖にも取り組んでいます。また同館では、生物に関する生態学(エコロジー)と、環境を考える活動(エコアクション)から、「えのすいeco」に取り組んでおり、毎月第3日曜日には、水族館前の海岸清掃と漂着物の観察を行う「えのすいecoデー」が催されています。



シナネンは、えのすいeco法人サポーターとしてカワウソ保全を支援するとともに、えのすいecoデーへの参加を通じて環境保全に取り組みました。今後もえのすいecoデーへの参加を継続し、海の豊かさを守る活動に貢献してまいります。



06. 瀬良垣ホテルマネジメント株式会社

～クマノミ育成のためのイソギンチャクの自然復帰における研究～

ハイアットリージェンシー 瀬良垣アイランド沖縄では、沖縄科学技術大学院大学(OIST)の海洋気候変動ユニットの監修のもと、地元である瀬良垣島周辺におけるカクレクマノミの育成と海洋での保全・復元を目的として活動を行っています。

本プロジェクトでは、OISTのマリン・サイエンス・ステーションにて飼育・ふ化させたクマノミの稚魚を周辺の海へ放流し、自然環境への定着を目指しています。しかし現在は、捕食などの影響により、クマノミの住処となるイソギンチャクへの定着が難しい状況が続いており、引き続きモニタリングを行っています。

また、2025年度には環境保全への理解促進を目的に、小学生とその保護者を対象としたSDGsイベントを開催し、研究施設の見学やレクチャー、育成区域周辺でのシュノーケリング体験を通じて、海洋環境の豊かさや保全の重要性を学ぶ機会を提供しています。

シナネンは瀬良垣ホテルマネジメントの取り組みに賛同し、瀬良垣島周辺でのカクレクマノミの育成と、海洋での保全・復元を支援いたしました。

